

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「地域や関係機関との連携を深め、児童生徒一人ひとりの障がいや発達等の状況に応じた、最も適切な教育の創造」をめざす。
支援学校として専門的機能を発揮し、教職員と児童生徒及び保護者との信頼とつながりを深めながら、以下のことを中心とした教育を展開する。
(1) 卒業後を見すえ、小学部・中学部・高等部の一貫性のある教育活動を進める中で、豊かな人間性と社会性を育て、自己実現の達成をめざす。
(2) 健康の保持・増進に関する習慣や態度を育て、情緒の安定を図り、元気に明るく誠実に生きる態度を養う。
(3) 安心して安全な教育環境のもと児童生徒の豊かな個性を活かしつつ一人一人の自己肯定感を高める。
(4) 仲間とつながり、地域の人々とともに生きていく喜びを実感する中で、互いを思いやり、尊重しあう態度を育てる。

2 中期的目標

- 1 (キャリア教育) 卒業後を見すえ、**自立・自己実現、社会参加**に向けた、小学部・中学部・高等部の**一貫性のある教育活動**を進める。
 - (1) 小学部の段階から、ライフキャリアの視点に立ち、一人ひとりの教育的ニーズに応じたキャリア教育の推進。
 - (2) 学部間の連携と情報共有を深め、小学部・中学部・高等部の連続性のある学びの構築とイノベーションの観点をふまえた教育活動の検証、改善を進めることによる組織の活性化。
 - (3) 関係機関と連携し、生徒一人一人が希望する進路の実現及び就労移行を支援する体制の充実。
- 2 (教育力向上) 教員としての**資質と教育力の向上**とこれからの時代の変化に対応できる**学校組織力の向上**
 - (1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、「学び続ける」教職員の育成。
 - (2) 教職員一人ひとりがプロ意識、人権意識をより高め、組織として特別支援教育に関する専門性の向上をめざす。
 - (3) 教員間の意思疎通を図り、健全で適正な同僚性のもと、全教職員が積極的に学校経営に参画する仕組みを整え、組織力の向上を図る。
 - (4) ICT 機器の積極的かつ効果的に活用した取り組みの推進。
- 3 (安心安全) 児童生徒一人ひとりの**人権を尊重し、児童生徒・保護者から信頼される安心・安全に過ごせる学校づくり**
 - (1) 教職員の見守る力で安全で安心な教育環境を整える。
 - (2) 危機管理体制の充実に向けた防災教育に取り組み「主体的に行動する態度」と「共助」に関する意識の向上。
 - (3) 体罰防止と個人情報適切な管理運用を行う体制の確立。
 - (4) 効率の良い業務推進で、心身ともに健康な状況で児童生徒に接する心構えを育成する。
- 4 (地域連携) 支援学校としての**センター的機能の充実**と、児童生徒が地域社会の中で自己肯定感と自己有用感を高め豊かに生きるための**地域連携の推進**
 - (1) 支援学校のセンター的機能の発揮や内容の充実。
 - (2) 本校の取り組みを積極的に発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携を深める。
 - (3) 交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で相互理解を深める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>回収率 ・令和4年度 保護者 72.2% (小学部 75%、中学部 60%、高等部 60%) 教職員 100% ・令和3年度 保護者 65.9% (小学部 70.2%、中学部 65.1%、高等部 62.0%) 教職員 100% 教職員の回収率は、今年度も 100%を達成した。保護者の回収率は昨年度 65.9%から 6.3 ポイント上がった。 今後も周知を徹底し、配付方法を工夫する。分かりやすい表記を心がける等、引き続き、保護者が提出しやすいような工夫を検討し、回収率がさらに上がるようにしたい。</p> <p>○保護者 130 名回答 (回収率 72.2%) 33 項目の質問に対して 20 項目で肯定率 80%を超えていた。(昨年度 20 項目)。 ・「学習の内容・学校生活の様子を懇談や学級(学年・部)通信、連絡帳などによって知ることができる」(肯定率 98.5%)《97.3%R3》 ・「学校は教育方針や教育情報について提供の努力をしている。」(同 96.2%)《91.1%R3》 ・「教職員は子どもの障がいについて理解してくれる」(同 95.4%)《94.6%R3》が肯定率の上位 3 つの項目となっている。 このことから、保護者の教職員に対する信頼度が高いことが分かり大変嬉しいことである。 また、以下の二項目に関しては 10 ポイント以上肯定的意見が上昇した。 ・「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている(感じている)。」(肯定率 85.4%)《74.1%R3》 ・「授業参観や、学校行事に参加したことがある。」(同 90%)《72.3% R3》</p> <p>○教職員 105 名回答 (回収率 100%) 49 項目の質問に対して 20 項目で肯定率 80%を超えていた。(昨年度 16 項目)。 ・「生徒一人一人が適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい進路指導を行っている。」(肯定率 95.5%)《68.6%R3》 ・「定期的に防犯教育・防災教育が実施されており、日常の諸活動の中で事故防止のための安全指導が実施されている。」(同 93.3%)《93.3% R3》 ・「指導要録、健康診断表、保護者案内文書等の収受、発送、保管に対する管理がなされている。」(同 90.4%)《90.5%R3》 ・「個人情報保護の観点から、児童・生徒の個人情報に関する管理システムが確立している。」(同 90.4%)《89.5%R3》が肯定率の上位 3 つ</p>	<p>【第一回学校運営協議会】7月15日図書室にて開催 ○協議テーマ 学校運営協議会実施要項、今年度の学校経営計画について、各学部・分掌より活動計画重点について、今年度の採択教科書について ○学校運営協議会からの意見 ・産業医としては先生方の働き方改革の観点を考えている。新しいことやその会議が立ち上がると負担が増える。できるだけ必要なものは残しつつ何か増やしたら別のものを削減することを考えてほしい。その上で新しい会議の立案を考えていただきたい。 ・教育相談のケースによっては、今後、SSW や SC と連携を図っていくことも必要であると考え。 ・アフターフォローの進路相談会はよい取り組みであると考え。支援機関との連携もぜひお願いしたい。</p> <p>【第二回学校運営協議会】11月4日図書室にて開催 ○協議テーマ 今年度の学校経営計画の進捗状況について、各学部等からの教育活動報告、学校教育自己診断について ○学校運営協議会からの意見 ・学校経営計画について、ヤングケアラーについての項目があるが現状などを教えてほしい。 ・今後もコロナ、インフルエンザなど感染状況に応じて、学校としての対応の仕方を教育庁と連携しながらあたってほしい。 ・ICT の活用は発達に偏りがある子どもには有効に使えるのではないと思う。 ・ICT を活用することで授業に集中して取り組んでいる。一方で、スマホ依存などの問題から ICT の在り方を見ていて医療者として思うこともある。眼科的に視力の低下や、狭い画面での集中から内斜視が増えるなど問題点も増えているので、紙の教科書を残していくべきではないかと考える。緊急事態宣言下でのオンライン授業や ICT による豊かな学びとは違い、学びとして子どもの手元に残るものがあるのではないかと。1人1台端末は備品。紙媒体の受容性を考慮し、子どもの学びが学びとなるように「両方いいね」と言えるよう教えてほしい。紙の教科書は動きがないものであるが、年を経て「子どもにとっての宝物」となっていくよう、紙媒体の活用も並行してすすめてほしい。 ・メンタルヘルスの取組みとしてタイムマネジメントや健康管理、当たり前が難しくなっている。そこに真正面から取り組んでいることに感銘を受けた。 ・ICT で学部を超えた情報共有、大事にしたいところである。学年の子どもの発達状況に合わせての取り組み、活用の度合い、目標を共有しておくことが必要なのではないか。「このような子どもを育てたいから、このような授業をしたい」といったように、事前に教育課程との結び付けが必要である。ICT と結び付けられれば、よりよくなるであろう。こういった点について、教員間で話をする機会があったのか。授業研究の成果があれば聞きたい。</p>

<p>の項目となっている。</p> <p>また、以下の三項目に関しては 10 ポイント以上肯定的意見が上昇した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」(肯定率 79.8%)《66.7%R3》 ・「生徒一人一人が適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい進路指導を行っている。」(同 95.5%)《68.6%R3》 ・「教職員は、積極的に PTA 活動に参加している。」(同 40.4%)《29.5% R3》 <p>・次年度の本校の重点取り組みについて</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学部間の連携によるキャリア教育の推進をめざした新教育課程の実施と検証 ② ICT の効果的な活用、「個別最適な学びの実現に向けた“1人1台端末”の活用」 ③ with コロナにおける教育活動の充実、交流及び共同学習の計画的・組織的な継続実施 ④ 働き方改革「充実した教育の提供のため心身ともに健康な教員と学校組織づくりをめざして」 	<p>【第三回学校運営協議会】2月20日図書室にて開催</p> <p>○協議テーマ 各分掌部からの総括と今後の課題をふまえた「R4 年度学校経営計画及び評価」の報告、学校教育自己診断集計結果からみえる考察報告・次年度の学校経営計画 中期目標(案)について</p> <p>○学校運営協議会からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方がめざされている「協働的な学び」と ICT 活用を一体的にとらえ、子どもの状況がそれぞれ異なるなか、取り組み内容をそろえるよりも、日々の実践を共有することが効果的だと思う。 ・社会や生活の大きな変化に伴い、学習の在り方の変容が学校には求められるし、保護者の学習への期待も大きくなってきている。先生方は日々試行錯誤され、研究や実践に努めておられるので、それを保護者にも十分に知ってもらえるような発信ができればいいと思う。 ・メンタルヘルス研修会を受けて、解決策として R5 年に反映していただきたい。 ・進路指導部の取り組みについて、前年度に比べて内容が充実しているように感じる。 ・保護者の多くの方から「先生方のおかげでうちの子は成長した」「できるようになった」と話している。 ・教育自己診断を受けて防犯防災教育について、コロナ禍でシミュレーションに留まっているところもある。コロナが収まっていく中で、南海トラフ地震が近い将来起こる話もある。実行性のある防災教育をお願いしたい。 ・教員間の相互理解、支援学校の生命線 TT、同僚性が充実していくと教育につながる。子どもたちは教員の言動や関係性などを見ているため、モデルとなるような行動をお願いしたい。 ・PTA 活動は保護者との連携、信頼関係。ダイレクトな保護者との連携、学校として教育集団として働き方改革のなか工夫をしながら取り組んでほしい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 自立・自己実現、社会参加に向けた、一貫性のある教育活動の推進	<p>(1) 小学部の段階から、ライフキャリアの視点に立ち、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育活動の推進。</p> <p>(2) 学部間の連携と情報共有を深め、小学部・中学部・高等部の連続性のある学びの構築とイノベーションの観点をふまえた教育活動の検証、改善を進めることによる組織の活性化。</p> <p>(3) 関係機関と連携し、生徒一人一人が希望する進路の実現及び就労移行を支援する体制の充実。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 各学部で「子どもにつけたい力」について意見交換を実施</p> <p>イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」のより一層の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間運用スケジュールについての検討 <p>ウ 小中学部保護者に対する進路説明会等の実施</p> <p>(2)</p> <p>ア 全校教育課程の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校教科会議の新設実施[各学部での実施] <ul style="list-style-type: none"> 小・中学部においては、R3 未検討の教科シラバスの見直しや修正を実施。 <ul style="list-style-type: none"> 3学部の連続性、一貫性を重視した校外行事の検討のためPTの立ち上げと夏季集中PT会議実施 全学部において、時間割の見直しと検討 <p>(3)</p> <p>ア 中学部生徒の進路選択における進路学習や体験学習の実施</p> <p>イ 高等部生徒の職場見学や実習体験等進路にかかわる学習を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師（企業、卒業生等）を活用した進路学習実施 <ul style="list-style-type: none"> 職場見学や体験実習の機会増 <p>ウ 定着支援、アフターフォローに向けた取り組みの充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・意見交換を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部で「子どもにつけたい力」をどの教育活動に落とし込めるか検討する。(1回/4月) <p>イ・今年度、スケジュールを見直し、目標提示を早めるための検討ができたか。</p> <p>ウ・進路説明会等の実施 1回以上</p> <p>⑩「学校は子どもの将来の進路や職業について発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」80%以上[76.8%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・全校教科会議の実施(7回/年)</p> <p>⑩「児童生徒の学びを支援するため、学部間の連携が円滑に行われ、うまく機能している」65%以上[62.9%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度、国・算・数のシラバスの見直し、修正ができたか。 <ul style="list-style-type: none"> PTを立ち上げ夏季集中PT会議を実施できたか。 <ul style="list-style-type: none"> 全校教育課程検討委員会にて月1回検討し、1月に提案できたか。 <p>(3)</p> <p>ア・各学年で進路学習や体験学習が実施できたか。</p> <p>イ・外部講師（企業、卒業生等）を活用した進路学習実施3回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業コース全生徒の就労 <p>⑩「生徒一人ひとりが適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい進路指導を行っている」70%以上[68.6%]</p> <p>ウ 卒業生対象の相談会や旧担任等による進路先訪問(R3卒業生全員)が実施できたか。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 4/12 全校教科会議にて学部ごとに協議を実施。教科内容やシラバスの見直しにつながった。(○)</p> <p>イ 1学期に年間スケジュールを検討し、前後期の目標提示時期を早めた。10月より運用開始。(○)</p> <p>ウ 小保護者に9/15 学部懇談会、中保護者に10/20「内部進学保護者高等部見学会」にて「卒業後の進路について」説明。(○) 81.5%4.7P↑ 小学部段階から卒業後の進路に対する保護者の関心が高く、次年度も実施したい。</p> <p>(2)</p> <p>ア・全校教科会議:7回中7回実施済み。各学部の取組みや課題について、学部を超えて教員間で情報共有できた。次年度は3学部を貫いた教科の系統性について検討を進めていきたい。(○)69.2%6.3P↑</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部教科会(小・中)にて系統性の観点から国・算・数のシラバスを検討。9月の全校教育課程検討委員会にて進捗状況を共有。10月に学部教育課程におろし、その後各学部の教科会にてR5シラバスへ反映。(○) 校外行事PT:夏季休業中に計4回実施。10月に職案提案。承認。(○) 全校教育課程検討委員会:月1回実施。10月にR5時間割を提案。承認。(○) <p>(3)</p> <p>ア中1:3学期に身近な職種についての調べ学習を実施。</p> <p>中2:6/21 作業体験に向けた事前学習、12/16 本校にて福祉事業所で行っている軽作業を体験した。</p> <p>中3:6/24・12/2 寝屋川支援見学、7/1 福祉事業所見学、10/3 高等部進路学習を見学した。</p> <p>10/7 内部進学者による高等部見学、その他、12月に「ヤ-ブ」特選工業見学。(○)</p> <p>イ・進路学習:年5回実施。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高2:7/20 ビジネス講座(京阪百貨店) 高2B:10/12・11/8 企業体験事前事後学習予定(10-7-7)、高全:10/3 進路学習実施(卒業生講師2名)、高3BとAの一部:10/11 就ボツの出前授業実施。 高等部生徒の実態に応じて実習回数を増やすことができた。(○) 5名/5名については内定。(○)95.5%26.9P↑ 今年度新たに庁舎実習や支援センターさくらでの実習等、実習機会を増やした。次年度も引き続き取り組みたい。 <p>ウ 6/5 同窓会(125名)実施。11/5</p> <ul style="list-style-type: none"> R2・3 卒業生対象の進路相談会実施。 夏季休業中に進路先訪問済み。(○)

府立守口支援学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 教員としての資質と教育力の向上と組織力の向上</p>	<p>(1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、「学び続ける」教職員の育成を行う。</p> <p>(2) 教職員一人ひとりがプロ意識、人権意識をより高め、組織として特別支援教育に関する専門性の向上をめざす。</p> <p>(3) 教員間の意思疎通を図り、健全で適正な同僚性のもと、全教職員が積極的に学校経営に参画する仕組みを整え、組織力の向上を図る。</p> <p>(4) ICT 機器の積極的かつ効果的な活用した取り組みの推進。</p>	<p>(1) ICT を活用した授業の公開</p> <p>イ 府内外の研修に積極的に参加し、伝達講習を実施するなど伝え広げる工夫を行う。</p> <p>ウ 校内研修の充実を図る</p> <p>(2) 専門性の向上 ア 専門性に特化した人材(PT、OT、ST、SC、SSW、医師等)を活用した研修等実施</p> <p>・「自立活動」についての学びを深めるための研修実施 ・中学部卒業後の進路や高等部コース制への理解を深める</p> <p>イ 学びに向かう環境づくりの充実に向けた取り組み</p> <p>(3) 職場におけるハラスメントの防止</p> <p>イ 教員間のコミュニケーション機会増</p> <p>ウ 積極的なイノベーション提案</p> <p>(4) “1人1台端末”を活用した協働的な学びの支援に向けて教育実践に役立つ内容の校内研修実施</p> <p>イ 医療的ケアを必要とする生徒対象の授業力向上に ICT 機器を活用する。その実践を授業担当教員以外と共有する。</p> <p>ウ ICT を活用した教材づくり</p>	<p>(1) 授業の公開3回/年 ⓐ 「子どもの実態に合わせてICTを活用した授業を行っている」65%以上[56.3%]</p> <p>イ・伝達講習実施 1回/学期</p> <p>ウ・付箋を活用し「研修の見える化」で振り返りができたか ⓐ 「研修・研究に参加した成果を他の教員に伝える機会を設けられている」65%以上[61.9%]</p> <p>(2) 2回/年実施 ⓐ 「教職員は子どもの障がいについて理解している」90%以上維持[94.6%] ⓑ 「児童生徒の実態を踏まえ指導内容や指導方法、学習の形態の工夫改善を行っている」85%以上[83.8%]</p> <p>・年度初めに1回実施 ・全校研修実施(各1回/年)</p> <p>イ 「ヤングケアラー」「愛着障がい」について、指導教諭等による学習会を実施各1回実施</p> <p>(3) 相談窓口の周知徹底</p> <p>イ 外部講師によるメンタルヘルス研修(グループワーク等)を実施</p> <p>ウ 意見箱に投入された意見について検討できたか。 ⓐ 「日々の教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができています」65%以上[60.0%]</p> <p>(4) 全体研修実施 1回/年(外部講師による) ・1~3件実践事例報告(各学部2回/年実施) ⓐ 「1人1台端末を活用して、自らの授業で協働的な学びの支援を行ったことがある。」[新規項目]75%以上</p> <p>イ 視線入力装置等のICT機器を活用した自立活動の指導を、他学部の教員に公開する。〔年1回〕</p> <p>ウ・ホームページへの教材UP 各学部10件以上〔全校で19件〕</p>	<p>(1) 学部間の公開授業：2/3回実施。 (6/9、11/1、2/2) (○) 肯定率が50.4%と昨年度より6.3P減。質問項目の一部を「ICT」から「1人1台端末」に変更したため、保護者に、児童生徒一人につき1台ずつ活用する授業を展開すると受け止められたのではないかと考える。次年度は、1人1台端末の効果的活用についてさらに検討しながら授業改善を進めていきたい。 (△)</p> <p>イ・伝達講習：8/30 進路指導部より「障がい者雇用就労支援施策・制度」について。2学期は日程調整がつかず実施できなかったが、3学期にまとめて2/15に管外出張と安安事業の報告、3/2に同和教育研修報告を実施予定(○)</p> <p>ウ法定研修を中心に、テーマ・内容・今後に生かす点についてまとめ、掲示板に貼り、共有した。1/24現在33件。(○)68.3%6.4P↑ (2) ア・7/26 臨床心理士による相談事例に基づく研修を実施。 ・POS各年4回、臨床年2回相談日を設定。相談後に担任等へ指導助言を実施。教職員の肯定率が79.8%と4P減少したのは、教職員が指導方法等を工夫する意欲はあるものの、時間的制約の中で外部人材の助言等を効果的に活用するまでに至っていないと捉えているためではないかと考える。次年度は効果的に活用できるよう周知したい。(△) ⓐ 95.4%0.8P↑ ・6/22 LSによる自立活動の目標設定に係る研修を実施。(○) ・8/30 全体研修「高等部コース制研修会」を実施。(○)</p> <p>イ 8/31 府教育センター指導主事によるヤングケアラー研修、8/30 指導教諭による愛着障がい研修を実施。(○)</p> <p>(3) 人権推進委員長が年間活動計画をもとに職会や職朝にて繰り返し周知。(○) イ 8/25 産業医によるメンタルヘルス研修を実施。事例をもとに各学部でグループ協議。教員からの肯定的な意見が多く、次年度も内容を工夫して実施したい。(○) ウ 投書なし。(○) 肯定率65.4%5.4P↑</p> <p>(4) 5/25 ICT研修(兵庫教育大 小川准教授)を実施。(○) ・7/22 学部別研修会にて4~5件の実践事例報告を実施。(○) 肯定率は75.0%。校内研修での学びを自身の教育実践に生かした結果である。次年度はICTを活用した「個別最適な学び」の実現に向けて校内研修を実施する。</p> <p>イ公開授業日に合わせて実施する予定であったが、当該生徒の欠席により未実施となった。次年度に向けて実践事例を蓄積し、改めて校内研修の場で事例紹介を行いたい。(△)</p> <p>ウ・総務情報部が中心となって各学部から10件以上の教材の集約を行う。 1/24時点で33件集約済(○)</p>
---	--	---	--	--

府立守口支援学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 人権を尊重し、児童生徒・保護者から信頼される学校づくり</p>	<p>(1) 教職員の見守る力で安全で安心な教育環境を整える。</p> <p>(2) 危機管理体制の充実に向けた防災教育に取り組み「主体的に行動する態度」と「共助」に関する意識の向上。</p> <p>(3) 体罰防止と個人情報管理の適切な管理運用を行う体制の確立。</p> <p>(4) 効率の良い業務推進で、心身ともに健康な状況で児童生徒に接する心構えを育成。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 感染症対策の継続</p> <p>イ 各マニュアルの見直しと活用</p> <p>ウ 道徳教育、人権教育の充実</p> <p>エ 安全点検後の適正で迅速な対応</p> <p>オ 安心安全な通学指導の充実</p> <p>(2)</p> <p>ア 防犯防災学習の充実に向けた検証と改善 ・学習内容充実のための安全研修の実施</p> <p>イ 防災用備蓄品の管理と追加補充</p> <p>ウ PTA、関係機関と協働した防災体制の推進</p> <p>(3)</p> <p>ア 人権アクションプランに基づいた行動の継続推進</p> <p>イ 個人情報の取り扱いに対する意識向上</p> <p>ウ 「安全で安心な学校づくり推進事業」研究校としての取り組みを実施</p> <p>(4)</p> <p>ア ワークライフバランスを意識した働き方への意識改革 ・時間外在校時間の上限：原則月 45 時間、年 360 時間以内をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教育庁や保健所等の関係機関と連携して適切な対応ができたか。</p> <p>イ 前期の活用状況を踏まえて、各分掌等で見直し、必要に応じて改訂できたか。</p> <p>ウ 「安全で安心な学校づくり推進事業（府立学校）」に応募し校内研修などを実施する。 ⑧「教職員の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」70%以上[66.7%%]</p> <p>エ・提案型で具体的な点検依頼ができたか。 ・点検依頼票を基に、行政と教員が状況確認しながら対応することができたか。 ⑨「学校は施設・設備の点検、事故防止に配慮している」75%以上[66.1%]</p> <p>オ・通学バス見守りソリューションシステムの導入による保護者周知の徹底（説明会実施） ・バス乗務員安全研修実施（3回/年）</p> <p>(2)</p> <p>ア 防犯防災不審者対応等の安全研修各1回実施。</p> <p>イ 日よけ保護シートを活用した保管ができたか。</p> <p>ウ 各保護者と学校が協力して、児童生徒の避難場所、避難所を確認できたか。（緊急時連絡カードの活用）</p> <p>(3)</p> <p>ア・人権侵害事象ゼロ ・人権研修2回/年</p> <p>イ・誤配付ゼロ ・誤配付防止に向けたクラスごとのミニ学習会開催（1学期中に実施）</p> <p>ウ 研究員から経過報告（伝達研修）1回/年実施</p> <p>(4)</p> <p>ア・計画的な会議設定（曜日固定） ・週2回の一斉退庁日の徹底 ・ストレスチェックの「総合健康リスク指数」110以下[112]</p>	<p>(1)</p> <p>ア 感染拡大防止ミーティングメンバーで感染に係る情報を速やかに共有の上、教育庁・関係機関と連携、対応できた。(○)</p> <p>イ 給食の異物混入時の対応マニュアルを改訂した。(○)</p> <p>ウ 3/2 事業報告と併せて同和問題に係る校内研修を実施予定。(○) 肯定率 79.8%3.1P↑</p> <p>エ・提案型に点検依頼票を改訂、運用。(○) ・係で点検依頼票を集約、主査と共有した上で懸念箇所を共に確認し、修繕箇所の早期改善に努めたが、経年劣化の箇所が増加傾向。肯定率 68.5%2.4P↑(△)</p> <p>オ・PTA 役員会で利用について説明し、周知した。(○) ・バス研修3回実施済み。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 6/29 地震避難訓練、8/29 不審者訓練(さすまた研修)と昨年度の振り返りを実施。(○)</p> <p>イ 体育館 2 階キャットウォークの備蓄品を保護シートによる保管可(○)</p> <p>ウ・年度初めに保護者と緊急時連絡カードの内容を確認、適宜加筆修正を実施。 ・9/7 PTA 学年会後に保護者と避難経路等を確認。(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・人権侵害事象0(○) ・8/31 ヤングケアラー研修を実施。 12/22 LGBTQに係る研修を実施。(○)</p> <p>イ・ヒヤリハット6件(△) ・1学期にミニ学習会を実施、対策案については9月職会にて全体周知。(○)</p> <p>ウ・校種間連携について2/15に報告。(○)</p> <p>(4)</p> <p>ア・分掌・学部会を火曜日、職会・運営委員会・企画調整会を木曜日に固定。(○) ・火・木に19時退勤日を設定。(○) ・ストレスチェックの結果は、昨年度同様112(△)。次年度、働き方改革をさらに推進し、週1回のノー会議デー等の設定を検討したい。</p>
--	---	---	--	--

府立守口支援学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 センターの機能の充実と地域連携の推進</p>	<p>(1) 支援学校のセンター的機能の発揮や内容の充実</p> <p>(2) 本校の取り組みを積極的に発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携を深める。</p> <p>(3) 交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で相互理解を深める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 関係機関との連携強化</p> <p>イ LSによる訪問相談の充実と効率化に向けた検証と改善</p> <p>ウ 地域の就学前施設や小中学校支援学級担当者へ高等学校、高等部段階の進路について理解啓発</p> <p>(2)</p> <p>ア ホームページの充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見やすいホームページに向けた検討 ・定期的なブログUPによる教育活動の紹介 <p>イ 保護者参観の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日(全日)保護者参観や参観週間の実施 <p>ウ 本校の教育活動に係る広報、理解啓発資料の改訂版の作成</p> <p>エ 放課後デイサービス事業所との連携</p> <p>(3)</p> <p>ア・市教委と連携して小中学校との居住地校交流に積極的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住地校交流参加に向けた保護者への働きかけを行う ・近隣校(守口市立錦小学校・錦中学校・府立門真西高校・芦間高校・守口東高校)との文化祭、作品展での作品交流を通じた交流を充実させる。 <p>イ 高等部生徒が校外のスポーツ大会に出場しやすい環境の整備やクラブ活動の充実を通して、大会への出場機会を確保し、生徒の余暇活動の充実を図る。</p> <p>ウ 地域でのあいさつ運動実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア 就学に向けた市教委との連絡会実施(前半期に1回)</p> <p>イ LSによる訪問相談を精選し、LSが市教委へ指導助言する来校相談の機会を設定できたか。(各学期1回以上)</p> <p>ウ 説明会実施2回/年</p> <p>(2)</p> <p>ア ブログUPを各学部1件/週[61件]</p> <p>ⓑ「学校のホームページを閲覧・活用したことがある」75%以上[67.9%]</p> <p>イ 1日参観、参観週間が実施できたか。</p> <p>ウ・「学校案内」パンフ新規作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介DVDの作成の準備と活用(R5完成に向けてPT) <p>エ 連絡協議会実施(1回/年)</p> <p>(3)</p> <p>ア 居住地校交流の内容・体制充実に向けた検討連絡会を、市教委と実施できたか。</p> <p>ⓑ「近隣の小中高等学校との交流の機会を積極的に設け教育全般に活かしている」75%以上[70.5%]</p> <p>イ・支援学校スポーツ大会、スポーツフェスタに参加できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援学校スポーツ大会事務局として、他支援学校と連携協力して本大会を実施することができたか。 <p>ウ 高等部生徒会による校外でのあいさつ運動を前期・後期に1回ずつ実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア 5/31・8/30・9/6に市教委との連絡会実施。(○)</p> <p>イ 6/21 来校相談を実施。来校研修では、10/21 守口門真支援教育 Labとして事例検討会を実施。(○)</p> <p>ウ 8/24 わかくさ・わかすぎ園にて実施。支援担への理解啓発については、守口市教委と連携しオンデマンド研修を1月～2月にかけて実施。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 6月より第2・第4水曜日をめどに、各学部より2件ずつ記載記事を提出。12月末現在、学校ブログ122件UP。(○)学年通信等に本校HPのQRコードを添付する等の工夫を行い「閲覧」にはつながった。しかし、保護者にとって「活用」というイメージは持ちにくかったのではないかと推察される。項目の表現を検討したい。肯定率63.8%4.1P↓</p> <p>イ 1日参観：1～2月に学部別に実施。参観週間：9/12～16実施(○)</p> <p style="text-align: center;">小学部 152名 中学部 164名 高等部 58名(のべ)</p> <p>ウ・パンフ原稿を作成し、発注済み。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務情報部と連携し、DVD作成に向けて打合せ中。(○) <p>エ・3/27 連絡協議会実施予定。(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・5/31 市教委との検討連絡会にて交流についての理解・協力を依頼した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内配付や懇談にて保護者へ周知。(○) ・芦間高との作品交流は9/6実施済み。その他の交流は後期に実施。 ・居住地校交流などは増加傾向であるが、従前の学校間交流は新型コロナウイルスの影響で実施できなかったため、肯定率は63.5%7P↓であったと考える。 <p>イ・7/23 支援学校スポーツ大会に高等部5名参加。11/3 陸上は個人出場でエントリーした。10/15 スポーツフェスタは6名参加。12月7日ドリフサッカー大会、バスケボール冬季大会に高等部参加。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議4回実施。(オンラインを含む)(○) <p>ウ 6/10 高等部生徒会による校外でのあいさつ運動を実施。後期は12/5～9に実施。(○)</p>
---	---	--	---	---